

寒い冬ともやっとお別れの 3 月になりました。3 月と言え  
ば一番に何を連想しますか？雛祭り・卒業式・お彼岸、草花  
では桃の花や土筆など、、、 最近では花粉症やPM2.5  
の印象が強くなっていますがあなたは大丈夫ですか？

まほろばの郷では、毎月末に定例会を開き、現況報告や次月事業計画などを話し合っています。現まほろばの経営状況ははっきり言って笑える状況ではありません。いろいろな事業の活性化を図るよう様々な意見が出ました。そのうちいくつかはすぐ実行に移すことになりました。



これからも多くの方にまほろばの郷をご利用・ご愛顧頂けるよう、知恵を出していきたいと思ひます。

### 2 月度定例会議事録

1. 日時：平成 27 年 2 月 28 日 9:30~11:30
2. 議事 主な決定事項（審議事項）
  - 1：新年度の体制について 女性 2 名退職 新規に地元の方採用 1 名は残
  - 2：学童の 27 年度数 通年 49 名 夏季限定で 10 名 保育士増員（外で遊ぶ時の補導に）
  - 3：ボランティアの方 2 時間有償ボランティアへ切り替え
  - 4：学童室の奥に 1 か所「避難口設置」を指導員から依頼されている。
  - 5：児童クラブの報告書作成（4 月）
  - 6：A3 の「まほろばの郷便り」が出来た。これからも継続したい。記事の作成にご協力ください
  - 7：まほろばの郷に「モーリーカー」が来てもらいたい交渉を、、、
  - 8：今後の企画・事業によって来る人を待つか送迎もするか、考えるべき。地域密着型に的を絞るべき カラオケの日 ピザの日 歌おう会 居酒屋 健康教室等 アイデアを出して実行する企画が必要。といわれると 2 の足を踏むのが現状。
  - 9：6 月に「まほろば祭り」をやるか 相談して決めたい。
  - 10：まほろば便りを、外部向け PR 紙として活用して、認知してもらえようように、地元へ配布することにする。企画せねば「お知らせ」もできないので、実践する。



### 教室紹介

### 歌声喫茶

- ◇ 月 2 回 基本的に第 1、3 火曜日の午後 1 時~2 時 30 分（途中で  
コーヒータイムあり）
  - ◇ 参加費は、コーヒー付きで  
一回 500 円です。
  - ◇ 現在、男女 20 名ほどの方にご参加  
いただいています。
- まず初めに発声をして、260 曲 ほど  
ご用意している曲の中から好きな曲  
をリクエストしていただき、皆さんで  
楽しく歌います。  
身体も心も  
ポカポカして、リフレッシュ♪



例えば、こんな曲をご用意しています。

いつでも夢を、琵琶湖周航の歌、川の流れるように、ここに幸あり、わすれな草をあなたに、下町の太陽、高原列車は行く、野に咲く花のように、青春時代、小さな日記、君恋し、まだ君に恋してる、瀬戸の花嫁、見上げてごらん夜の星を、ローレライ、昴、千の風になって、贈る言葉、北国の春、千曲川、早春賦、なごり雪、世界に一つだけの花、花は咲く、時代、君の名は、珍島物語、オー・シャンゼリゼ、麦の唄（マッサンの主題歌）などなど…

歌うことが好きな方はもちろん、健康増進、脳トレ、ストレス解消、若返りしたい方♪

会員制ではありませんので、どうぞお気軽にご参加ください。

講師：近松真由美（歌）、檜貝由利子（ピアノ）

### 三輪大社。狹井(さい)神社。四月十八日。鎮花祭 (はなしずめ)。

大宝令(701年)に「季春(すゑのはる)」の、国家による祭りとして定められていたもの

#### 「令義解」(834年)(りょうぎげ)

謂ふ。大神(おほみわ)、狹井(さい)の二祭なり。春花飛散の時(はなはな)に在りて、疫神(やくじん)を分敷(わけ)て禊(け)れいを行ふ。その鎮通(ちんあつ)の爲に、必ずこの祭あり。故に鎮花(はなしずめ)といふ。(謂、大神狹井二祭也。在春花飛散之時、疫神分敷而行禊。爲其鎮通。必有此祭。故曰鎮花。)

狹井川の名の由来は山百合の古名の「サイ」からといひ、この川辺には百合が多かつたといふ。また三輪と百合の関係は深く、狹井神社の鎮花祭はもちろん、末社の奈良市にある三輪神社の三枝祭でも、神前に神酒と共に三輪山の麓で採った山百合の花を献じる習いとなっている。

開催日時：4月18日(土)10:30~  
催事場：大神神社、狹井神社

古来より春、花が散るのに乗って疫神が病を起すと考えられ、その疫神を鎮めるためにおこなわれるお祭りです。別名「薬まつり」とも呼ばれ、医薬関係者が多数参加されます。祭典は本社に引き続き、撰社となる狹井神社でも行われ、この日から期間限定の「忍冬酒」「鎮花御幣」が授与されます



### 歴史教室の歴史を巡る旅募集

問合せ：まほろばの郷 宮崎まで  
Tel : 077-514-1855

### 歴史を巡る旅(祭り紀行)

1. 日時：4月18日(土) (前から3両目に乗車)
  2. 行程：野洲発07:58 守山08:01、草津、8:05、京都08:27、08:33、奈良09:31、09:40、三輪10:06着。  
大三輪神社10:30着。鎮花祭見学(10:30~12:00)三輪大社から狹井神社へ移動。狹井川の辺散策。(12:00~12:30)  
昼食は三輪そーめん。(13:00~14:00)  
櫻井市立埋蔵文化財センター見学。(14:00~14:45)  
三輪発 15:05奈良 15:34、15:54、京都16:41 16:46守山17:11、野洲17:15。
  3. 雨天中止。
  4. 連絡先：宮崎 稔 (携帯電話090-8932-7849)
- 古事記に「その河を佐草河(さいかわ)という由(ゆえ)は、その河の辺に山由理草(やまゆりそう)多(さわ)にありき。故(か)れその山由理の名を取りて佐草河と名付けき。山由理の本(もと)の名は佐草と言ひき」とあるこの川のほとりで、七人の乙女が遊んでいたところへ神武天皇が来られ、先頭に立たれる姫(古事記では、伊須氣余理比売(いすけよりひめ))を皇后に選ばれた。

日本のひな祭りのルーツは、3世紀前後の古代中国で行われていた風習に基づくとされています。遣唐使によって日本に伝えられ、禊(みそぎ)の神事と結びつきます。当初は、天子(天皇のこと)をお祓いするための儀式であったものが、平安時代には宮中行事へと変化したといわれています。川のほとりに男女が集まり、災厄を祓う「上巳の祓い」として、「曲水の宴」を催したり、草木や紙などでかたどった人形(ひとがた)で自分の体をなでて穢れを移し、川や海へ流す儀式が行われるようになりました。現在でも日本の各地で行われている「流し雛」はこの名残といわれています。



### 編集後記

今月もたくさんの記事を頂きありがとうございました。今回も皆様のご協力のおかげで無事できました。これからも豊富な内容の紙面になるよう皆様のご意見に耳を傾けながら作りたいと思ひます。《谷口》